山田セキは現状維持 八セキ合同ならず

物部川合同セキ問題

物部川にある八つの古い井セキを一つにして、年間米一千六百五十トンを増産する「物部川合同セキ建設計画」は、十余年間もめ続けた結果、このほど山田セキと父養寺セキは参加せず、下流の六セキだけで別の合同セキを建設することに決まつた。

しかし、問題は全部解決したとはいえず今後に残されたものがかなりあるといえそうだ。（写真は、田村セキ）

関係の井セキは上流から父養寺、山田、野市上、同下田村、物部、久枝、吉田の順となり山田セキは南国市香美郡土佐山田町、長岡郡介良村の一部事務組合として組合議会を置き、組合役場によって管理運営される。

他の七セキは土地改良法にもとずく土地改良区によって維持されるという相違点がある。

セキはいずれも藩政時代またはそれ以前に建設されたとみられるものがあって完全でない。

このため水不足が生じ、立地相応の生産ができないところから昭和二十五年ごろ、合同セキ建設計画が国、県、地元民などによって持ち上がった。

その後同計画はいろいろ論議のマトになったが、ここ数年を振り返ってみると「南国市発足の母体ともなった「嶺南総合開発期成同盟会」によって強力に進められ県の構想は山田セキ上流約三百米の地点に、幅百米、高さ九米のセキを工費約六億円（国五、県三・五、残り受益者）で確保するというもの。

別に嶺南総合開発期成同盟会でも、位置を山田セキ上流約六百米、セキの高さ＝約三米、工費＝六・八億円（物価変動によって高くなったようだ）で施行する計画を立てたが、八セキの合同という点は同じであった。

これらの計画にたいし山田セキをのぞく他のセキは賛成であったが、山田セキ側に替不両論があり、とくにセキ当局の反対が強く、理由として①水量の確保に不安がある。②負担金に対する見通しがついていない。③用・排水施設の点が未解決という三点をあげ、これがセキに合流しない〃キメテ〃となった。

こうして山田セキが踏み切れないため下流の六セキ（父養寺セキは山田セキ上流にあるため、必然的に同セキと運命を共にするわけ）は、六セキだけの合同セキ建設を計画し、実現を強く県に迫まった。

同計画は工費四億五千万円（国費五、県費三・五、地元一・五）とし、野市上セキ上流約三百米のところに三十八年度から着手、四十二年度中に完成するというものであった。

山田セキ側の一部に 別行動現われる

下流六セキの合同が伝えられると、山田セキ当局に不満を持つ関係地区民の一部が、八セキの合同セキ建設へ別行動を取り始めた。その中心となったのが金堂南国市農委会長、国沢嶺南総合開発期成同盟会水利部長らで運動は土佐山田、介良の両町村にも波及し「山田セキ井筋土地改良区発起人会」を結成、組合員対象の署名運動を続けた。

これは合同セキを建設するには法により、山田セキ土功組合を土地改良区に改組しなくてはならないためである。

流域の市町村長ら あっせんに乗り出す

こうなってくると山田セキの母体ともいうべき南国、土佐山田、介良の市町村でも捨てておけず、市長村長も同議長らがあっせんに乗り出した。

あっせん案は①八セキ合同の土地改良区をつくる。②土地改良区の発起人となる人数と人選はあっせん人に一任する。③土地改良区ができるまでの準備事務は、市の執行部が行なうーというようなものであった。

これを土地改良区設立世話人会は受け入れ、山田セキ側は同意しなかったため、あっせん者側は「組合議会で土地改良区をつくるかどうか決めてほしい」と要望。

その後！組合は協議を重ねて結論を出し、文書にして関係市長村長らで組織するあっせん機関の山田セキ井筋合同セキ推進委員会に回答した。

同文書の重要部分は次のとおり三点に分けられている。（原文のまま）

一、物部川大合同セキの構築並にこれが実現を前提としての山田セキ井筋の土地改良区設立の問題に関しては、長期間にわたりあらゆる角度より審議検討し、特に水量の確保、地元負担金の軽減並に諸施設の拡充のいわゆる三項目の効率的解決に最大の努力を傾注してきた。

二、然るに前記三条件の解決については関係方面と誠意を以て接渉を重ねて来たにもかかわらず何らの期待した成果が容れられず、しかも下請セキとの関係等四囲の状勢はじんぜん日を空しくすることを許さない実情に立至った。

三、ことに本組合は地方自治法による一部事務組合であるので、土地改良法に基く土地改良事業たる前記諸問題解決のために、この際規約に定めたる本然たる組合の姿に立返ることに決した。

一以上のように非常にわかりにくいものであるが、「組合はその規約によって組合本来の仕事をすることにし、土地改良区のことはノータッチである」ということである。

この組合意志は県当局に伝えられ、結局県は下流六セキの合同セキ建設に踏み切ることを決めた。

九月県議会で、調査費二十万円の計上が決まる。

なお山田セキ当局は「八セキ合同には、基本的には賛成である。」という点を始終強調している。（M）

市議戦は 10月31日

改選をむかえた市議会議員（定員30人）の選挙は、10月31日にはじめての大選挙区制で行なわれる。立候補は35、6人とみられ620票前後を目標に戦いはすすめられる見込み。なお即日開票。

立候補予定者（市会議員）に対する選挙運動などの説明会

10月10日頃開催

市選管では、市議選に立候補を予定されている人たちに対し、選挙運動などの周知説明会を10月10日（予定）に開らく。このため選管では、事務連絡などのため10月5日までに、立候補予定者の方々の連絡をのぞんでいる。

随想リレー

第一回からスケッチを入れる予定であつたが、なかなか筆がすすまなかつたが、本号からスケッチを始めることにした。

夢は時代とともに

人間が宇宙を飛びまわる時代、過去には夢に過ぎなかったことが現実となった。われわれの小さい頃（そういえばたいそう年寄りじみるが、まだ四十才を越したばかり）、その頃は国道や県道にしてもほんとに静かであった。ときおり馬車が終日に往来し、荷物輸送の主要な役割をしていた。

私しの家の西を県道が南北に走りちょっとした坂道となっている。そこで木材や米などを満載した荷車が立往生することが度々あった。馬こそ迷惑なもので、重い荷物のほかに、尻をいやと言うほど叩かれていたこんなときはよく後押をしたことだった。

いまとはまったく雲泥の差である。市役所前の国道あたり、車の洪水だ。「ヤジキタ道中」の真似事でもするものならそれこそオダブツになりかねない。俗に言う「カミナリ族」なるものがものすごい爆音で疾走する。音速に拍がつく頃なればあたりまえかも知らない。

デパートはデパートで商魂たくましく、食品バカンスなどなど、……陳列品は目のさめるものばかりである。ないないづくしのわれわれは、結局ため息をつくのが落ち、だが、若いときの体の保養にはなるかも知れない。

月刊誌にこんな意味の記事があった。

M君は中学校をおえたが、農業が嫌いで、小さな町の店で働いていたが、一年足らずで人に使われることに耐えられず百姓をすることになった。それから八年、彼は何度も百姓からの脱出を考えたと言う。しかし、その度に店に努めたことを想い出して踏みとどまったという。そんなことで真面目な百姓ではなかったが、機械の導入は人に先きがけてやった。当時は骨おしみをする男とうわさされた。しかし、若者のいなくなったいま彼は部落の農業経営のリーダー的存在となり、生活面でもテレビーから食生活まで非常によくなり、都会にぐんぐん近づきつつある。こうして向上してゆけば将来農業の魅力は再認識されると、こう言った次第。確かに、科学の進歩はあらゆるものを過去に追いやったし、またそうなりつつある。

日本の経済もこの数年来目ざましい成長を遂げたと、数字が示している。私たちの身の廻りもひとところから見ると随分よくなった。それにしても一面生活苦のための一家心中、社会保障を切に訴える作家水上勉さんのあの池田総理大臣殿という深刻な社会の底辺を聴くにつけ、なかしらうつろなものを感じる。

一人の力では解決できないもの、国の施策を必要とするもの、いろいろあろうがそれはそれとして、お互い大きな夢を持つこと、そして将来に向って努力していかなければならない。

夢を無くした人生にどんなものがあるだろうか、ここ私しもこんなことを胸にとどめこん後を努力していきたい。

次回のバトンは、産業経済課長の国沢氏にお渡しします。

筆者のよこがお

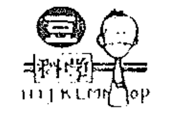
二宮　博男（41）（税務課長）

大正11年1月、下末松の産。内原野訓練所から昭和14年満州に渡る。20年現地入隊敗戦後ソ連のイルクーツクに抑留、25年長岡村書記、33年後免町総務係長、34年市財政課長補佐、36年出納室長、36年現職となる。

なかなかの金言居士であるが、すすめられれば人後におちない左(ひだり)のかくし芸がある。賭ごとはあまり好まないようだが、黒、白は下手な横好きの方である。

家庭は、妻光子(33)長男芳久(13)長女美和(10)両親の稲城(66)幸(63)さん。

アルミより軽い鉄



鉄がアルミより軽いなんていうと頭が変だと思われそうだが、軽い場合もある。私達の平生見なれている鉄は一センチ角の棒で三・四トンの重さの物をつり下げることができる昔しこの鉄が理論的に完全に立派な鉄として作られると、同じ一センチ角の鉄が百二十トンもの重さをつり下げることができる。約四十倍強くなるわけである。だからこのような立派な鉄がたやすく買えだすと、総べての鉄製品は今までよりは四十分の一の太さのものでことが足りることになるから重さも四十分の一になる鉄はアルミの約三倍の重さであり強さも約二倍である。この強い鉄で物がどしどし作られるようになると。アルミで作った物は重くて持てぬなんてことになる。昔から世界的に名高い日本刀の鉄は普通鋼の約二倍の強さがある。日本は現在世界で三〜四番に位する鉄の製産国であるが品質的にはまだよう作らない鉄が多少ある。

スエーデンは質の良い鉄を作ることで有名である、作り方は日本刀と同じように砂鉄を木炭で溶かして作っている。かってのオリンピックでスエーデン選手の棒高飛びの棒が鉄製であるのには日本選手も驚いた。日本の竹よりも軽くて強かったからでした。スイス留学の農村青年がスイス製の大鎌を持って帰り日本で作ろうとしたがどうしてもできなかった。この大鎌は石に刃が当れば曲がるだけで刃こぼれせず、また、石でたたき直せばすぐ使える便利なもので、品質の良い鋼なればこそである。日本でもかっては日本刀を作った技術があっただけあって、最近ＩＮ鋼と名付けた優秀な鋼が発明され量産にうつされつつある。

鉄管（ロケット）

身体障害者の体育大会

十月三十日　高知市で

県身体障害者連盟（会員十万七千人）ではスポーツの振興によって心身を保養し、明朗快活で積極的な意志の持ち主として、更生の増進に資する趣旨のもとに県下の身体障害者の体育大会をつぎにより開催されることになっている。

市に在住する身体障害者はふるってこの大会に参加して下さい。

とき、十月三十日午前九時三十分

ところ、高知市営グランド

参加資格　障害者手帳を有する満十三才以上のもの。

参加申込、参加希望者は参加申込書（地区委員にあり）を地区の委員に提出すること。地区委員は九月末までに市福祉事務所へ提出する。

秋の訪れは あなたの装いから

毛糸編物展示、即売会

西部公民館の毛糸編物授産所は多年にわたって修得した技術を誇る秋ものの展示、即売会を開きます。

着やすさの雑万カーディガン、斬新な模様編の奥様向きセンター、可愛い子供用品や手軽るにできる手芸品など、秋の陽の柔らかな色でまとめた展示会を是非ごらん下さい。

とき　10月12日（午前10時から）13日（午前中）

ところ　西部公民館

農機具のこつ

籾すり機を使用するとき一番困るのは米に籾が混じることです。原因は種々ありますが主な理由は次のような点です。ゴムロールの調節不良または片ちび等のためはげる率が悪くて万石に籾が多く出る場合。万石の網の目が大き過ぎる場合。万石の傾きが悪い場合。万石の上網を流れる量が適当でないとき。万石の網が破れたり錆びているとき。昇降機内部の仕切に孔があいている場合。この場合はなかなか見付けるに困難です。万石網の中の方向に障害ができている場合、これは機械が古くなるとできます。木片を打付けるか新聞紙等をつめることです。以上の点に注意すれば籾の出ることはまずなくなるでしょう。